

# 胃がんについて

平成 22 年度  
データ

胃がんとは

胃がんの分類

胃がんの検査

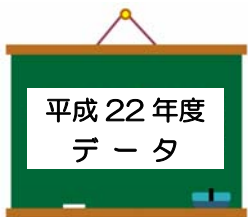
胃がんの治療

標準的な入院  
スケジュール

※上の目次をクリックするとそれぞれの項目に移動します。

(項目が見あたらない場合は、同じページ内にありますので、下にスクロールしてみてください。)

※文字を大きくしたい場合は、マウスを右クリック→【ズームツール⇒ズームイン】にて調整してみてください。



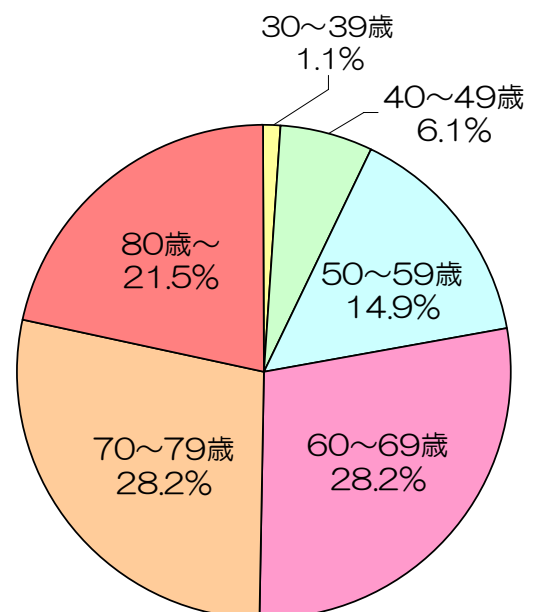
## ◎入院患者数◎

胃がんで入院した患者数	181 人
-------------	-------



## ◎年齢構成◎

～39 歳	2 人
40～49 歳	11 人
50～59 歳	27 人
60～69 歳	51 人
70～79 歳	51 人
80 歳～	39 人
胃がんで入院した患者の平均年齢	69.9 歳

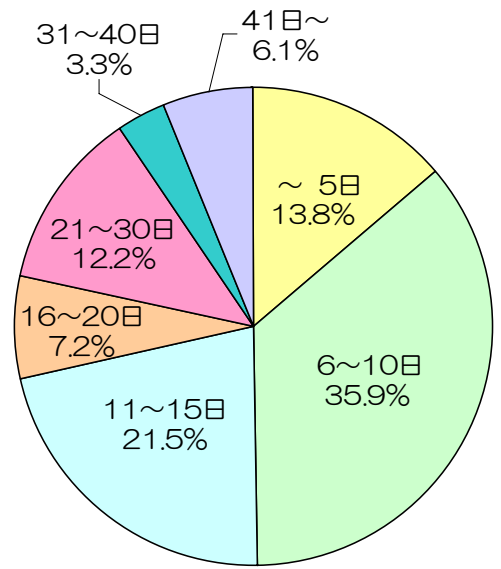


## ◎在院日数◎

胃がんで入院した患者の平均在院日数	14.5 日
当院に入院した患者の平均在院日数	14.6 日

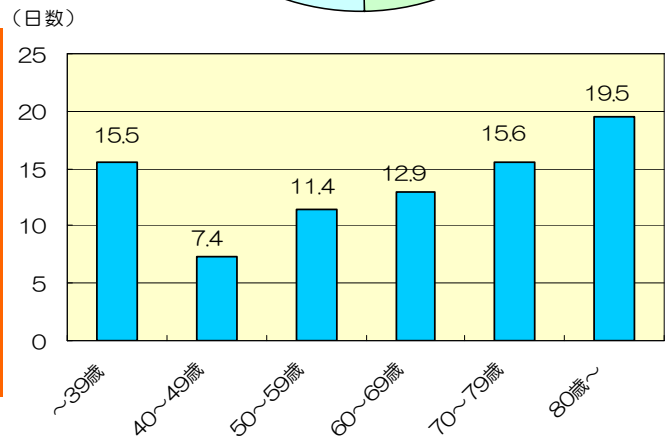
◎胃がんで入院した患者の在院日数による分布◎

～5日	25人
6～10日	65人
11～15日	39人
16～20日	13人
21～30日	22人
31～40日	6人
41日～	11人



◎年齢別平均在院日数◎

～39歳	15.5日
40～49歳	7.4日
50～59歳	11.4日
60～69歳	12.9日
70～79歳	15.6日
80歳～	19.5日
胃がんで入院した患者の平均在院日数	14.5日



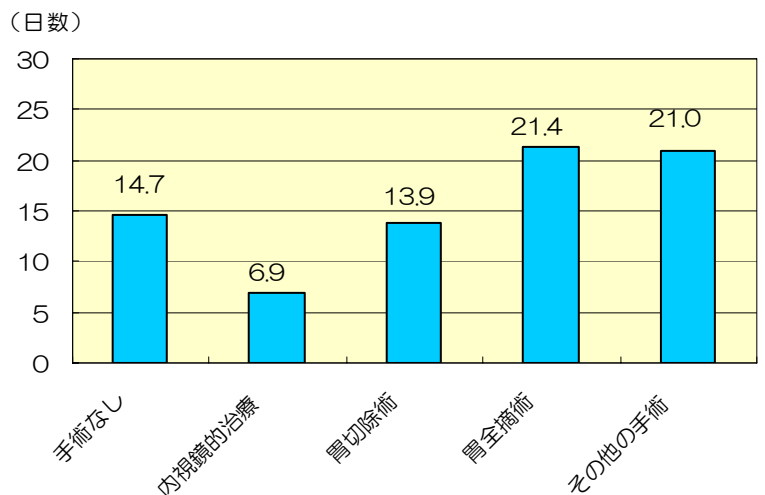
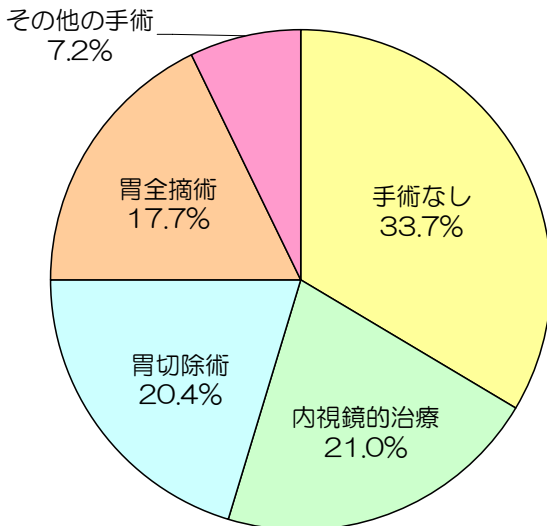
◎治療別状況◎

	人数	平均在院日数
手術なし※1	61人	14.7日
内視鏡的治療	38人	6.9日
胃切除術	37人	13.9日
胃全摘除術	32人	21.4日
その他の手術※2	13人	21.0日



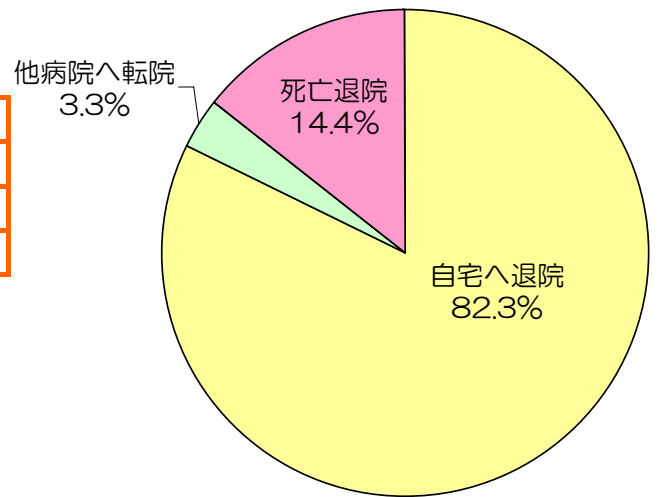
※1 「手術なし」の中には輸血を行っている患者が含まれております。

※2 「その他の手術」は胃空腸吻合や化学療法のための注射用カテーテル設置（化学療法の準備）などになっております。



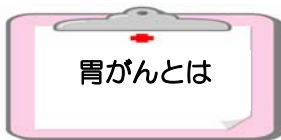
◎退院状況◎

自宅へ退院	149人
他病院へ転院	6人
その他（介護施設への入所等）	0人
死亡退院	26人

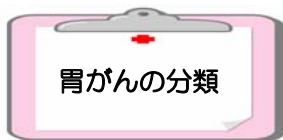


※掲載した統計は、DPC データを用いたものです。

DPC データは、入院中の「最も医療資源を投入した傷病名」による統計です。



胃がんは日本人に多いがんの一つです。胃の内側にある胃粘膜いねんまくから発生するため、内視鏡ないしきょうにより早期に発見することができ、適切な処置により高率で治すことができます。しかし、がんが発見されずに進行すると、腫瘍しゅりゅうを形成して食物の通過障害つうかしょうがいをきたし食事がとれなくなったり、がんからの出血が続き貧血になったり、潰瘍かいようを形成して胃に穴が開くこともあります。



胃がんはある程度の大きさになると、胃壁いへきの表面に特徴的な変化が現れてきます。その後、次第に成長し深い層に広がっていきます。胃がんにはいくつかの分類方法がありますが、ここではがんの深達度しんたつど（胃壁のどの層までに達しているか）によって表現される分類について説明します。

◎早期胃がん【mがん】◎

粘膜内にとどまっているがん。

◎早期胃がん【smがん】◎

粘膜をこえて、粘膜下層にとどまっているがん。

◎進行胃がん【mpがん】◎

筋層まで進んでいるがん。

◎進行胃がん【ssがん】◎

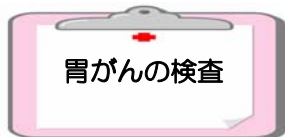
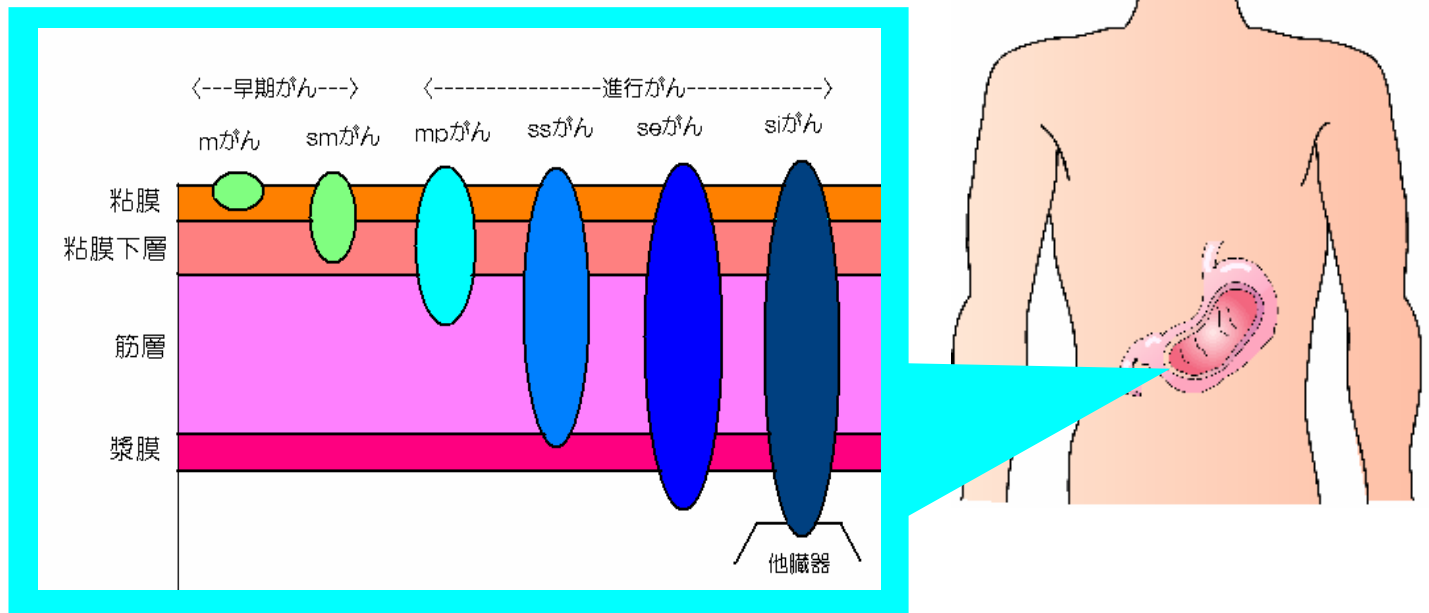
筋層をこえて、漿膜しょうまくにまで進んでいるがん。

### ◎進行胃がん【seがん】◎

胃の表面まで出てきているがん。

### ◎進行胃がん【siがん】◎

胃の表面まで出てきて、さらに他の内臓や組織に浸潤<sup>しんじゆん</sup>してしまっているがん。



### ◎消化管造影検査（バリウム検査）◎

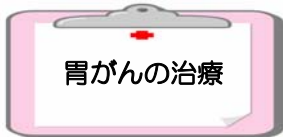
バリウムを飲んで行うレントゲン検査です。胃粘膜<sup>いねんまく</sup>や胃全体の形の異常をみます。粘膜の凸凹の有無から診断しますので、凸凹の無いがんは診断が難しいといえます。

### ◎上部消化管内視鏡検査（胃カメラ）◎

口<sup>くち</sup>からファイバースコープを飲んで、胃の内部を直接観察します。色の変化なども観察できるため、微少な病変も発見できます。また、直接組織を採取して検査することもできます。

### ◎病理検査◎

内視鏡<sup>ないしきやうけんさ</sup>検査で採取した組織や、手術で切除した組織を、顕微鏡<sup>けんびきやう</sup>等でより詳しく分析します。がんや転移の有無、がんの進行度合いの診断がなされ、追加手術の必要性や化学療法を行なう判断基準ともなります。



## 胃がんの治療

当院では、胃がんの治療を『消化器科』と『外科』で行っています。

当院で主に行われている治療方法についてここで紹介しておりますが、治療方法や治療に要する期間については、胃がんの状態や症状により異なります。

### ◎内視鏡治療◎

粘膜内にとどまっている早期がん（m がん）であれば、上部消化管内視鏡（胃カメラ）で治療をすることができます。

#### 『胃粘膜切除術（EMR）』

[治療日程の概要をみる](#)

生理食塩水などを注入して盛り上げた胃がんを、ワイヤーを引っ掛け、高周波電流により焼き切ります。

ワイヤーをかけることができる 2 cm 以下の早期がんが対象となります。

#### 『胃粘膜下層剥離術（ESD）』

[治療日程の概要をみる](#)

ワイヤーに引っ掛け焼き切るのではなく、高周波針状ナイフにて切り取るため、2 cm を超える早期がんでも治療が可能です。

### ◎開腹手術◎

内視鏡による治療が困難な場合などは、開腹し胃の切除治療を行います。がんが出来た場所や大きさにより切除方法が選択されます。

#### 『胃部分切除術』

リンパ節への転移の可能性が極めて低い早期胃がんに対して行います。がんのある箇所を部分的に切除し、残りの胃を縫合します。

#### 『噴門側胃切除術』

胃の入口の方 1/3 を切除し、周囲のリンパ節を切除します。

#### 『幽門側胃切除術』

[治療日程の概要をみる](#)

胃の出口の方 2/3 を切除し、周囲のリンパ節を切除します。

#### 『胃全摘術』

[治療日程の概要をみる](#)

◆ 定型手術・・・胃を全て摘出し、周囲のリンパ節を切除します。また、がんの進行状況により、脾臓や膵臓、大腸と一緒に切除します。術後胆のう炎が危惧される場合には、胆のうも摘出します。

◆ 縮小手術・・・胃の全摘出と、周囲のリンパ節の切除にとどめます。

※リンパ節転移とは、がん細胞が発生した部位からリンパの流れによってリンパ節にたどりつき、そこで増殖することをいいます。

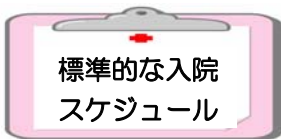
## ◎腹腔鏡下手術◎

リンパ節転移のない早期胃癌で、内視鏡治療が困難な場合に行います。いくつかの小さな創をあげ、腹腔鏡や手術器具をお腹の中に挿入し、モニターを見ながら腹腔鏡下操作により手術を行いません。胃切除、リンパ節郭清を行ない、最終的には5cm程度の切開創から胃を摘出する手術です。通常の開腹手術と比較して創が小さいために術後の痛みが少なく、早期の社会復帰が可能となります。

※腹腔鏡下手術にて『胃部分切除』、『幽門側胃切除』、『噴門側胃切除』、『胃全摘』が可能です。

## ◎化学療法◎

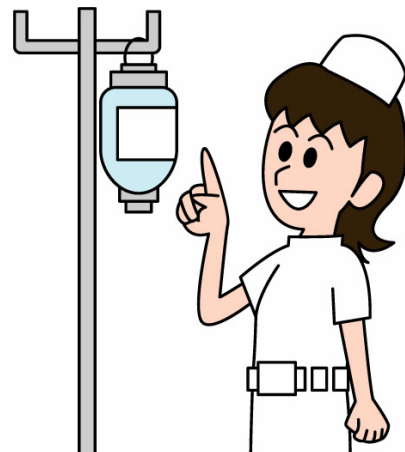
他の臓器に転移してしまっている場合や手術では切除しきれない場合、手術後にがんが再発した場合には化学療法（抗がん剤）による治療を行います。また、手術前に化学療法を行ない、がんを小さくしてから手術を行なうこともあります。



当院では治療や検査を進める標準的なスケジュール表を、あらかじめ作成しています。スケジュールに沿った治療、検査を行うことで、治療内容や安全性を一定に保つことができます。（緊急入院や合併症のある場合などは、個別にスケジュールを立てることがあります。）当院では、胃癌の治療に対応するスケジュール表が16種類あり、主な内容は以下のとおりです。

## ＝治療＝

- ◆胃粘膜切除術（EMR）を行なうための入院
- ◆胃粘膜下層剥離術（ESD）を行うための入院
- ◆幽門側胃切除術を行うための入院
- ◆胃全摘術を行うための入院



◎胃粘膜切除術(EMR)を行なうための入院◎

経過	手術当日・入院日	手術後1日目	手術後2日目	手術後3日目
治療	 胃カメラで、病変部の切除を行ないます。			
注射	 治療前から点滴を行ないます。治療後止血剤など点滴を24時間行ないます。		 朝と夕に注射を行ないます。	 朝に注射を行ないます。
お薬	 日常飲んでいる薬は全て飲まないで下さい。		 抗凝固剤以外の日常飲んでいる薬を飲み始めて下さい。	 退院後のお薬が出ます。夕方から飲んで下さい。
	 治療後より水薬を14時と21時に飲みます。	 水薬を9時14時21時に飲みます。		 水薬を胃カメラ終了1時間後に飲みます。
検査		 腹部レントゲン・血液検査を行ないます。		 胃カメラで治療後の確認を行ないます。
食事	 朝から食べたり飲んだりできません。	 夕食までは食べたり飲んだりできません。夕食からおもゆが出ます。	 朝食と昼食は五分粥、夕食は全粥が出ます。	 検査が済むまで食べたり飲んだりできません。検査終了後には全粥が出ます。
安静度	 治療後は医師の許可があるまで、ベットから起き上がらないで下さい。寝返りは自由です。治療後24時間を予定しています。	 レントゲン検査が問題なく、医師の許可後はトイレ・洗面のみ歩行可能です。	 病院の敷地内であれば制限はありません。	
排泄	 ベット上便器、尿器使用です。看護師を呼んで下さい。	 安静解除後は、トイレが使用できます。		
看護		 身体を拭きます。	 午後からシャワー浴ができます。	 シャワー浴ができます。
説明	 出血しやすいので安静にして下さい。			
その他	 便が出たら流さず看護師に知らせて下さい。			 胃カメラの結果が良ければ退院です。
	 入院中は禁煙です。			

◎胃粘膜下層剥離術(ESD)を行うための入院◎

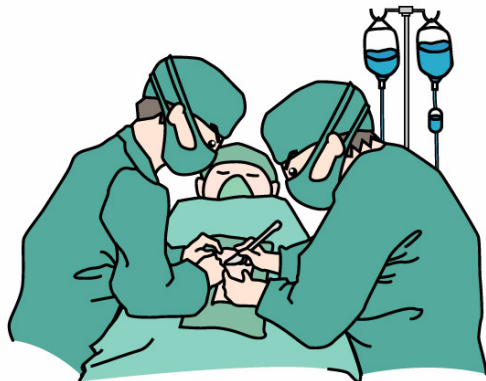
経過	手術当日・術前	手術当日・術後	術後1日目	術後2日目	術後3日目	術後4日目	術後5日目	術後6日目
治療	胃カメラで、病変部の治療を行います。							
注射	治療前から点滴を行います。	24時間点滴を行います。		朝・夕方、注射を行います。				朝、注射を行います。終了後、針を抜きます。
お薬	水薬を14時と21時に飲みます。日常飲んでいる薬は飲まないで下さい。		水薬を9時・14時・21時に飲みます。	水薬を14時・21時に飲みます。	医師の指示どおり内服して下さい。			
検査			腹部レントゲン撮影・血液検査を行います。	確認の胃カメラ検査を行います。				
食事	朝から食べたり飲んだりできません。			夕方から水分をとることができます。	夕食からおもゆが出ます。	夕食から五分粥が出ます。	夕食から全粥が出ます。	
安静度		術後24時間、ベッドから起き上がらないで下さい。寝返りは自由です。	レントゲン検査が問題なく、医師の許可後は、トイレ・洗面のみ歩けます。	病棟内であれば自由に動けます。	病棟の敷地内であれば制限はありません。			
排泄		ベッド上で便器、尿器を使用します。(看護師をお呼び下さい。)		トイレが使用できます。				
看護			身体を拭きます。			シャワー浴ができます。		
説明				検査の結果、今後の方針が決まります。				患者様の状態を確認して、必要な場合は退院後のサービス調整ができ、退院可能か判断します。退院後も不安無く生活を送れるよう援助します。
その他	※入院中は、禁煙です。 ※便が出たら、流さず看護師へ知らせてください。便の様子を看護師が確認し、治療の参考にさせていただきます。							



◎幽門側胃切除術を行うための入院◎

経過	入院日（手術前日）	手術当日（術前）	手術当日（術後）	術後1日目	術後2日目	術後3日目
食事	昼より食事は食べられません。夜10時まで水やお茶が飲めます。	食べたり飲んだりできません。			水やお茶が飲めます。	朝食からおもゆがでます。
安静度	病院内の敷地内であれば制限はありません。		ベッドから降りないで下さい。ベッドの上では自由です。	病院内の敷地内であれば制限はありません。		
清潔	来院前に入浴かシャワー浴をしてください。			身体を拭きます。		
内服	水の下剤を2L飲みます。希望の方に眠剤を処方します。					
注射	絶食のため点滴を行います。	手術前から点滴を行います。	手術後の点滴を24時間行います。	24時間点滴を行います。	午前より点滴を3本行います。	午前より点滴を2本行いません。
検査				レントゲン撮影・血液検査を行います。		レントゲン撮影・血液検査を行います。
処置	おへそをきれいにします。	手術を行います。	手術中に背中に管が入ります。	傷の様子を診ます。		背中からの管を抜きます。
排泄	トイレが使用できます。		手術中に尿管が入ります。		尿管を抜きます。	トイレが使用できます。
説明指導	看護師より手術の説明があります。		医師より手術後の説明があります。		看護師より食事の説明があります。	

経過	術後4日目	術後5日目	術後6日目	術後7日目	術後8日目
食事	朝食からおもゆがでます。	朝食から五分粥がでます。		朝食から全粥がでます。	
安静度	病院内の敷地内であれば制限はありません。				
清潔	シャワー浴ができます。				
内服					
注射	午前より点滴を2本行いません。	午前より点滴を1本行いません。			
検査			血液検査を行いません。		
処置	傷の様子を診ます。				
排泄	トイレが使用できます。				
説明指導				ご都合に合わせて、栄養士より食事の説明があります。	医師と看護師より退院後の生活について説明があります。

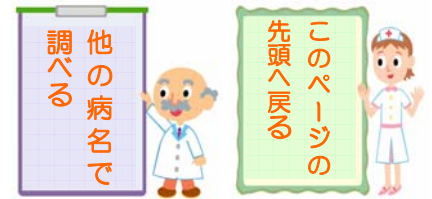


◎胃全摘術を行うための入院◎

経過	入院日（手術前日）	手術当日（術前）	手術当日（術後）	術後1日目	術後2日目	術後3日目
食事	昼より、食事は食べられません。夜10時まで、水やお茶が飲めます。	食べたり飲んだりできません。			水やお茶が飲めます。	朝食からおもゆがでます。
安静度	病院の敷地内であれば制限はありません。		ベッドから降りないで下さい。ベッドの上では自由です。	病院の敷地内であれば制限はありません。		
清潔	来院前にシャワー浴又は入浴をして下さい。			身体を拭きます。		
内服	水の下剤を2L飲みます。希望の方に眠剤を処方します。					
注射	絶食のため点滴を行います。	手術前から点滴を行います。	手術後の点滴を24時間行います。	24時間点滴を行います。	午前より点滴を3本行います。	午前より点滴を2本行います。
検査				レントゲン撮影と血液検査を行います。		レントゲン撮影と血液検査を行います。
処置	おへそをきれいにします。	手術を行います。	手術中に背中とお腹に管が入ります。	傷の様子を診ます。		背中とお腹の管を抜きます。
排泄	トイレが使用できます。		手術中に尿の管が入ります。		尿の管を抜きます。	トイレが使用できます。
説明指導	看護師より手術の説明があります。		医師より手術後の説明があります。		看護師より食事の説明があります。	

経過	術後4日目	術後5日目	術後6日目	術後7日目	術後8日目	術後9日目
食事	朝食からおもゆがでます。	朝食から5分粥がでます。		朝食から全粥がでます。		
安静度	病院の敷地内であれば制限はありません。					
清潔	シャワー浴ができます。				入浴ができます。	
内服						
注射	午前より点滴を2本行います。	午前より点滴を1本行います。				
検査			血液検査を行います。			
処置	傷の様子を診ます。					
排泄	トイレが使用できます。					
説明指導				栄養士より食事について説明があります。		医師と看護師より退院後の生活について説明があります。





※掲載されている「入院スケジュール」等は、平成 23 年 5 月 1 日現在のものです。内容は変更となる可能性があります。